

にしむろアグリ情報



■水田を活用した施設・露地野菜花きの振興

西牟婁地域の野菜花き栽培は、温暖な気象条件を活かし、イチゴやレタス、タカナ、ガーベラ、トルコギキョウ、ストック等が栽培されています。近年、販売価格の低迷と生産者の高齢化、後継者不足により、野菜花きの栽培面積は減少傾向となっており、生産者の確保や高品質安定生産、省力化技術の導入が必要となっています。農業水産振興課では、今年度から野菜花きの普及指導計画として、下記の課題に取り組んでいます。

①施設栽培でのスマート農業の推進

イチゴ栽培施設内の温湿度や二酸化炭素濃度を測定し、施設内栽培環境の実態把握を行うとともに、生育や収量、品質に及ぼす影響を調査します。

②業務用野菜および花き産地の振興

野菜栽培での省力化機械の導入推進やストックの育苗省力化技術の検討、ホオズキ栽培での省力・安定生産技術実証試験を実施します。

③新規栽培者の確保と経営の安定化

野菜花き生産者の経営の安定化を図るため、野菜や花き品目の複合経営による経営モデル指標の作成を行います。

これらの取り組みについて、関係機関と連携して、現地での実証展示ほの設置や調査を行っておりますので、生産者の皆様には今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



イチゴ栽培現地研修会
(JA 紀南稲成イチゴ研究会)



ウスイエンドウ省力化機械（杭打ち機）導入検討会



ストック育苗省力化試験
(セルトレイ苗定植作業)

西牟婁振興局 農林水産振興部 農業水産振興課

〒646-8580 和歌山県田辺市朝日ヶ丘 23-1

TEL : 0739-26-7941 (栽培技術・経営相談、新規就農支援、食育推進など)

TEL : 0739-22-1443 (補助事業、鳥獣害対策・狩猟、農地貸借、農家民泊、養蜂など)

FAX : 0739-26-7945

URL : <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130600/130651/index/index.html>

■持続的なウメ産地の発展〔重点プロジェクト〕

西牟婁地域の基幹作物であるウメは、暖冬や開花期の天候不順の影響で作柄が大きく変動し、生産量や価格が不安定になっています。また、農業従事者の減少や高齢化が今後ますます加速することが見込まれ、産地を維持していくためには高齢者等の作業負担の軽減、後継者や新規参入者を確保することが急務となっています。

そこで、農業水産振興課では令和3年度から3カ年計画で①ウメ「南高」の生産安定技術の導入推進、②農作業受託組織による農家負担の軽減、③産地提案型新規就農者受入体制の整備に取り組んでいます。

具体的には、①は新梢の摘心処理と低樹高化を組み合わせることで、収量を維持しながら作業性を高めた樹形の展示ほを田辺市秋津川に設置します。併せて各地域において摘心処理の講習会を引き続き実施します。また、うめ研究所で育成された自家和合性品種「星秀」を受粉樹として導入推進するため、高接ぎ展示ほや苗木導入実証ほを設置し、「南高」の着果安定を図ります。②はウメ園の管理作業（収穫を除く）で特に労力の要るせん定や草刈りを請け負う組織の現状や課題を把握するとともに、作業を委託したい農業者との円滑なマッチング方法を関係機関と検討します。③は紀州田辺新規就農者育成協議会の取り組みをモデルとして周辺の町に働きかけを行い、後継者をはじめ新規参入者など多様な担い手の育成・確保を図ります。

これらの取り組みに際し、関係機関をはじめ農業者の皆様には、現地での展示ほ等の設置にあたり多大なご協力を頂いております。取り組みで得られた成果を少しずつ地域に広められるよう、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い致します。



「南高」の摘心講習会（中三柄）

■山間部における農業の維持

管内山間地域で耕作放棄地が増える中、身近で手軽に栽培できるイタドリが注目されています。令和3年11月8日には西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会役員会で、平成27年度から令和3年度まで田辺市龍神村に設置した展示ほの結果と栽培マニュアル(林業試験場発行)を活用して栽培推進を行いました。役員からは「畑で栽培できるのか」、「興味があるので一度栽培してみたい」などの声がありました。イタドリの栽培に興味のある方は、農業水産振興課へお問い合わせください。

また、川添緑茶研究会では、茶の中切り技術の現地検討会を通じた樹勢回復の推進と、複合経営として労力分散が可能な自然薯栽培を検討しており、令和4年3月から実証ほの設置を計画しています。



イタドリの栽培推進

■女性農業者セミナーを開催

令和3年11月25日、農業経営や地域づくり等に参画する女性を支援するため、女性農業者セミナーを開催しました。講師は指導農業士の二葉美智子氏（みなべ町）で、「うめ産地の魅力を発信！」と題しての講話と梅染め体験を行いました。参加者からは、「発想と行動力



講話



梅染め体験

に刺激を受けた」、「梅染め体験は楽しかった」などの声がありました。

今後も女性農業者が興味のあるテーマでセミナーを実施していきたいと考えています。

■4Hクラブで獣害対策研修会を実施

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：廣畑佳和）では、獣害対策に取り組んでいます。果樹試験場職員の指導のもと、講習会とフィールドワークを併せて実施し、対策の基本を学ぶとともに、現場での実践力を磨きました。

研修会終了後には「とめ刺し」や「解体」、「ジビエ料理」についてさらなる研修を望む声が聞かれ、今後の活動に繋げていきたいと考えています。



園地の防護柵を紹介するクラブ員

■農業経営の発展を応援します～農業経営発展サポート事業の紹介～

農業者の皆さんの相談ニーズに応じた「専門アドバイザー」を無料で派遣し、課題解決をサポートします。

こんな時にご活用ください！

- ◎経営診断を受けて経営を改善したい。
- ◎法人化のメリットとデメリットを知りたい。
- ◎経営継承について相談したい。
- ◎雇用したいので就業規則や社会保険をどうすればよいか相談したい。
- ◎農産物の加工品を開発し、6次産業化を目指したい。など

本事業の活用事例

西浦健太さん

白浜町でガーベラの高品質栽培に取り組んでいます。

販路及び規模拡大等、経営発展の相談に本事業を活用され、経営の課題を整理し、更なる販路及び規模拡大と経営の効率化を目指しています。



詳しくは、振興局の担当窓口までお問い合わせください。

受賞者の紹介

■廣畑 幸男氏（田辺市中三栖） 令和3年度和歌山県農林水産業賞



梅専作農家として、生産性の低い園地等の計画的改植による生産安定と園地整備を進めるとともに、青梅から漬け梅へのリレー収穫を行うなど、経営安定への取組は地域農業の模範となっています。

また、西牟婁地方農業士会会長のほか、紀州田辺新規就農者育成協議会委員として農業後継者育成に尽力するなど、地域農業の振興に貢献されました。

■クビアカツヤカミキリにご注意下さい

県北部地域で特定外来生物のクビアカツヤカミキリによる果樹への被害が広がっています。モモやスモモ、ウメなど果樹の他、サクラに幼虫が食入し、樹の内部を食害します。

本虫は繁殖能力が非常に高く、幼虫が樹に食入してしまうと全てを駆除することが難しく、実用化されている防除対策を講じても被害をなくすことは困難です。

紀南地域では被害は報告されていませんが、被害の拡大を食い止めるためには早期発見、早期対策が重要です。本虫と疑われる成虫やフラス（木くずと幼虫の糞の混合物）を発見した場合は、農業水産振興課又はJAにご連絡ください。



クビアカツヤカミキリ成虫（左）とフラス（右）

■和歌山県豚熱防疫演習を実施

令和3年1月にかつらぎ町の養豚場において豚熱が発生し、同年5月には西牟婁管内でも野生イノシシの感染が初確認されるなど、豚熱への危機感が高まっています。

令和3年10月28日、西牟婁振興局をはじめとする県内関係者約70名を参集し、イノブタ産地のすさみ町で現地演習を実施しました。職員が連携して防疫体制を整え、豚熱対応にあたる流れを再確認し、万が一に備え発生時の対応を学びました。



模型を使った追い込み演習